

2012年9月28日

九州新幹線全通1年半後の利用状況調査

株式会社 鹿児島経済研究所

【調査結果の要点】

●居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は48.9%、本県居住者の利用割合は51.1%となり、全線開業以降の調査では初めて他県居住者の利用割合が本県居住者の利用割合を下回った（図表1）。他県居住者の割合は1年前調査（2011年9月）の56.4%より7.5^{ポイント}減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は9.8%となっており、1年前調査の12.0%より減少した。

●利用目的

- ・ 他県居住者の利用目的は「ビジネス」が39.0%と最も多く、全線開業以降の調査では初めて「観光・レジャー（32.3%）」を上回った（図表3）。一方で山陽新幹線沿線だけをみると、「観光・レジャー」が41.7%と最も多かった（図表10）。

●利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」以外（「複数回利用」「定期的に利用」「ほぼ毎日利用」の合計）の割合が1年前調査より増加している（図表5）。「初めて利用」は調査対象全体では16.9%、他県居住者では29.2%となった。

●日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊は85.9%と、全通以来高い水準で推移している（図表7）。一方で、「ビジネス」での日帰りは34.3%となり、全通以来、ウエートが高まっている。

株式会社 鹿児島経済研究所

【調査概要】

■調査目的

本調査は九州新幹線の利用状況を把握し、今後の観光振興などに生かしてもらうことを狙いに毎年3月に実施、また昨年は全線開業半年後の9月にも実施した。今回は、半年後調査から1年が経過したため、九州新幹線の利用状況にどのような変化が起こっているか調査し、県内企業の事業活動などに役立ててもらうことを目的とした。

■調査実施日

2012年9月5日（水）、7日（金）、8日（土）、9日（日）
の4日間、9：00～10：30、14：00～15：30、18：30～20：00の
各時間帯

■調査場所 鹿児島中央駅の新幹線改札内コンコース

■調査対象 調査期間中の九州新幹線乗降客から無作為抽出

■有効回答 1,783件

■調査方法 面接による直接聞き取り

【調査結果】

1. 居住地

- ・ 他県居住者の利用割合は48.9%、本県居住者の利用割合は51.1%となり、全線開業以降の調査では初めて他県居住者の利用割合が本県居住者の利用割合を下回った（図表1）。他県居住者の割合は1年前調査（11年9月）の56.4%より7.5ポイント減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線居住者の利用割合は9.8%となっており、1年前調査の12.0%より減少した。
- ・ 本県居住者の目的地をみると、県外が6割を超えている。県外のうち、九州外の割合が10.6%となっており、山陽新幹線沿線は9.0%だった（図表2）。

2. 利用目的

- ・ 利用目的別にみると、調査対象全体では「ビジネス」が35.7%と最も多く、次いで「観光・レジャー（23.6%）」となった（図表3）。
- ・ 本県居住者の利用も「ビジネス」の割合が32.6%と最も高く、次いで「通勤・通学（17.6%）」「観光・レジャー（15.3%）」となった。
- ・ 他県居住者の利用目的は「ビジネス」が39.0%と最も多く、全線開業以降の調査では初めて「観光・レジャー（32.3%）」を上回った（図表3）。全通以降、他県居住者の「観光・レジャー」での利用割合は減少傾向にある。一方で、山陽新幹線沿線については「観光・レジャー」が41.7%と最も多くなっている（図表10）。

- ・ 本県居住者の利用目的を移動別にみると、県内移動では「通勤・通学」が 41.6%と最も多い（図表 4）。次いで「ビジネス（16.2%）」「買い物（11.1%）」となっている。「その他」も 17.0%となっており、「冠婚葬祭」や「通院」、「親戚・友人に会う」などその利用目的も幅広い。県外移動では「ビジネス」が 42.6%と 1 年前調査よりも 4.0^{ポイント}増加した一方で、「観光・レジャー」は 20.8%と 1.6^{ポイント}減少した。

3. 利用頻度

- ・ 利用頻度をみると、調査対象全体、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて利用」以外の割合が 1 年前調査より増加し、リピーターの利用がすすんできている（図表 5）。「初めて利用」は調査対象全体では 16.9%、他県居住者では 29.2%となっており、1 年前調査より減少している。
- ・ また、本県居住者の利用頻度を移動別にみると、県内移動においては「ほぼ毎日」が 41.7%と最も多く、従来の調査結果と同様に、九州新幹線は通勤・通学など日常の移動手段として定着している状況が確認された（図表 6）。

4. 他県居住者の日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の「観光・レジャー」での有料宿泊の割合は 85.9%と全通以来、高い水準で推移している。一方で、日帰りは 9.9%となっている（図表 7）。
- ・ 「ビジネス」での日帰りは 34.3%となり、全通以来、ウエートが高まっている半面、有料宿泊は 60.4%と減少傾向にある。

5. 他県居住者の本県における消費額

- ・ 他県居住者の本県における消費額は、合計で 2 万 9,648 円だった（図表 8）。利用目的別にみると、「ビジネス」では 1 万 9,724 円、「観光・レジャー」では 3 万 8,047 円となっており、観光客の消費額はビジネス客の消費額の約 2 倍となっている。

6. 鹿児島を訪れた回数

- ・ 他県居住者の来鹿回数は、「5 回以上」が 64.7%と 6 割を超え、「初めて」は 15.4%となった（図表 9）。
- ・ 利用目的別にみると、「ビジネス」では「初めて」が 4.8%と 1 年前調査の 9.8%より 5.0^{ポイント}減少、「観光・レジャー」でも「初めて」が 36.4%と 1 年前調査の 37.3%より 0.9^{ポイント}減少した。
- ・ 山陽新幹線沿線をみると、過半数（52.7%）が「5 回以上」鹿児島を訪れたと答えており、全線開業を機に当該地区との往来が活発になっている様子が見えてくる（図表 10）。

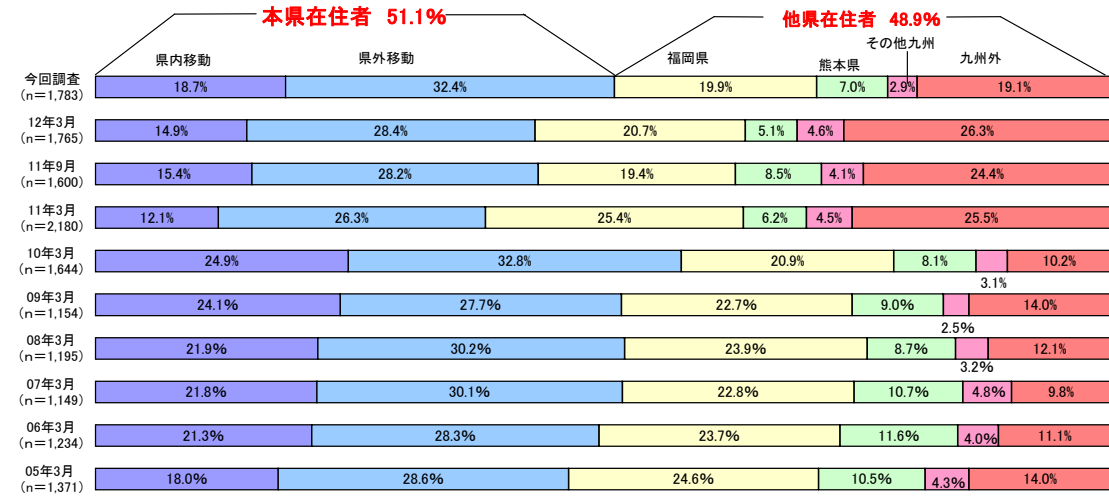
7. 県外観光客へのアンケート

- ・ 目的地は「鹿児島市（66.9%）」が最も多く、「指宿（34.5%）」「霧島（11.0%）」「種子屋久（10.3%）」「知覧（6.4%）」と続く（図表 11）。また、目的地を「鹿児島市」と回答した観光客の半数以上が天文館（57.3%）、桜島（56.3%）を訪れている（図表 12）。
- ・ 観光目的は「温泉」が 50.7%と最も多く、次いで「自然・景観（42.6%）」「料理・グルメ（27.7%）」となっている（図表 13）。
- ・ 情報収集手段は「インターネット（45.3%）」の利用割合が最も高く、「市販のガイドブック（28.0%）」「旅行代理店（21.3%）」が続く（図表 14）。
- ・ 県外観光客の二次交通手段は、「路線バス」の利用割合が 29.7%と最も高く、次いで「タクシー（26.6%）」「在来線（23.4%）」「市電（19.0%）」「レンタカー（18.4%）」の順となっている（図表 15）。
- ・ 自由意見として、「何を食べてもおいしかった」「温泉が気持ち良くて満足だった」「維新ふるさと館で鹿児島の歴史を詳しく学べた」など鹿児島の食や観光資源、観光施設を評価する声は従来の調査同様、多かった。
- ・ また、従来調査で指摘のあった「交通機関や観光施設に関する案内の分かりにくさ」については、「前に来たときよりも案内が分かりやすくなっていた」「観光案内所で色々教えてもらった」などと改善がうかがえるものもあった。一方で「宮崎方面の交通の便が悪い」「自動車がないと不便」などと二次交通手段に対する声は依然として聞かれた。

以上

【本件に関するお問い合わせ】 経済調査部（TEL 099-225-7491）

図表1 居住地別利用者割合



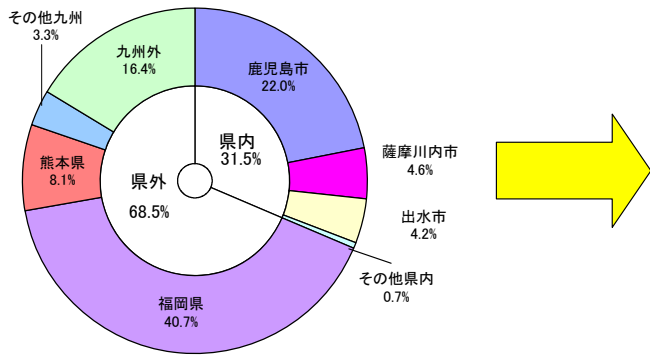
※山陽新幹線沿線居住者の利用割合 (単位: %)

	10年3月	11年3月	11年9月	12年3月	今回
山口県	0.5	1.3	1.0	1.2	1.1
広島県	1.1	4.1	3.7	3.3	2.4
岡山県	0.3	1.6	2.0	1.8	1.5
兵庫県	0.4	2.9	2.1	1.5	1.5
大阪府	1.0	3.8	3.2	4.0	3.3
5府県計	3.3	13.7	12.0	11.8	9.8

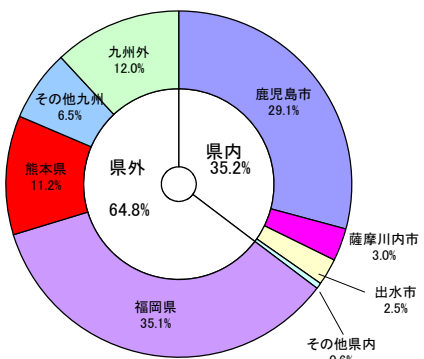
※目的地(山陽新幹線沿線) (単位: %)

	11年3月	11年9月	12年3月	今回
山口県	0.9	1.6	1.8	1.0
広島県	2.7	3.1	3.0	2.7
岡山県	1.6	0.7	0.9	0.6
兵庫県	2.3	0.7	1.3	0.8
大阪府	5.1	2.7	2.6	4.0
5府県計	12.6	8.8	9.6	9.0

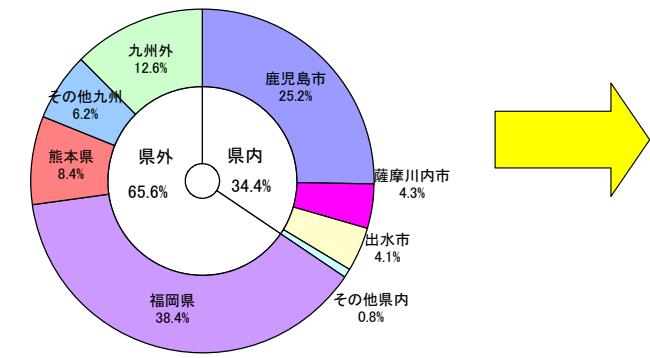
図表2 本県居住者の目的地
【11年3月】



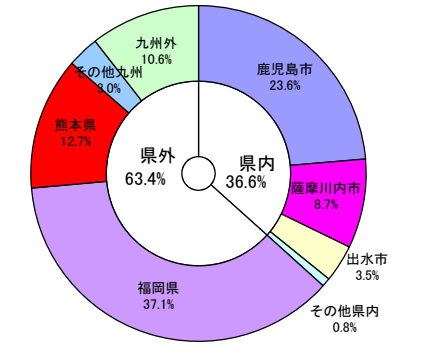
【11年9月】



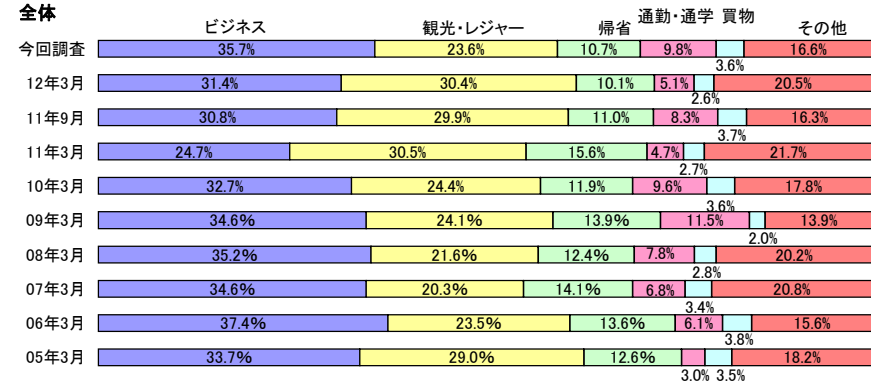
【12年3月】



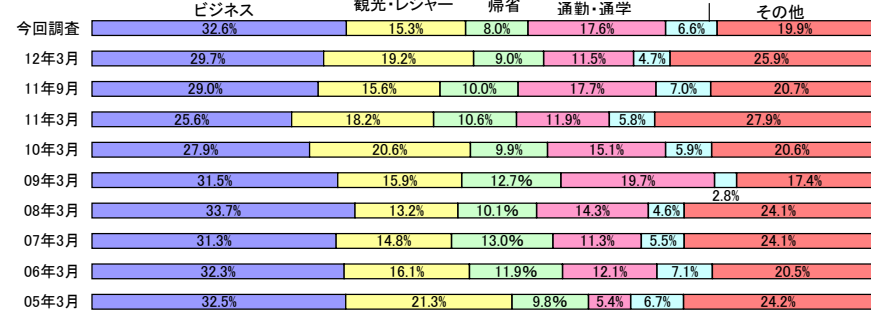
【今回調査】



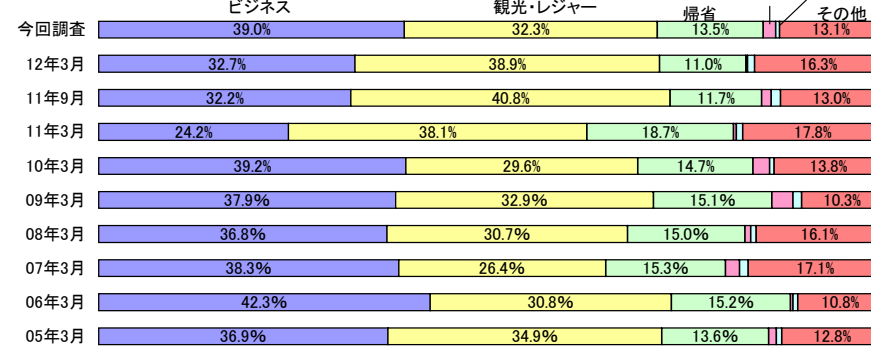
図表3 新幹線利用者の利用目的



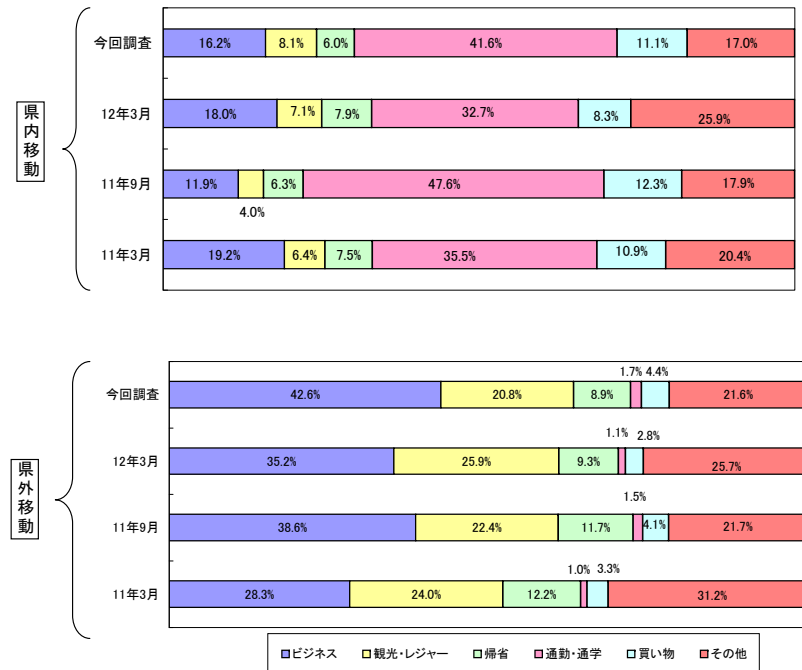
本県居住者



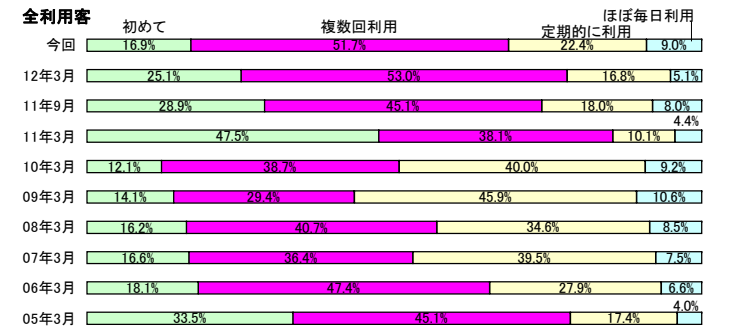
他県在住者



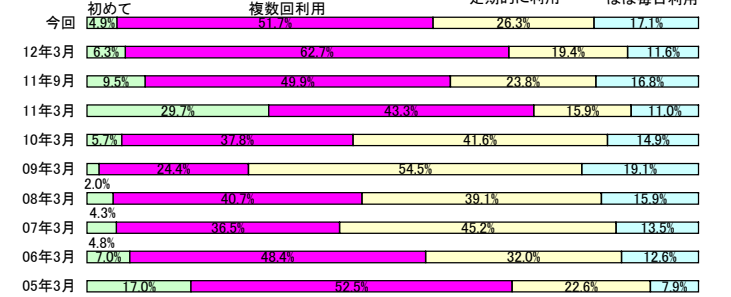
図表4 本県居住者の移動別利用目的



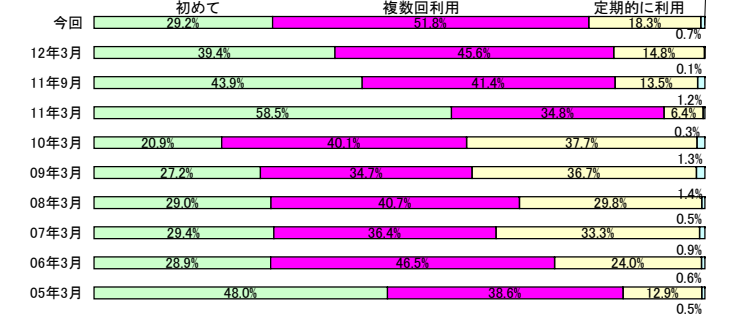
図表5 新幹線利用者の利用頻度



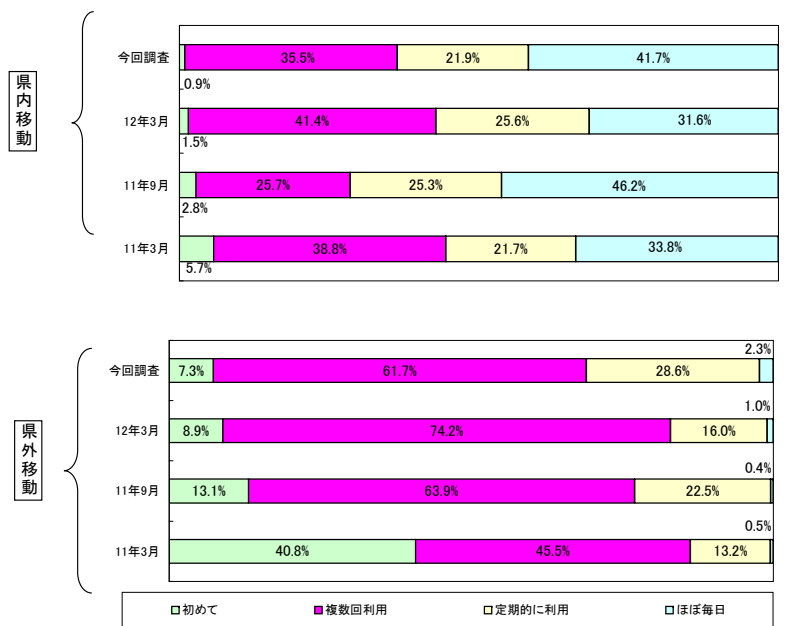
本県居住者



他県居住者



図表6 本県居住者の移動別利用頻度



図表7 他県居住者の日帰り・宿泊状況(利用目的別)

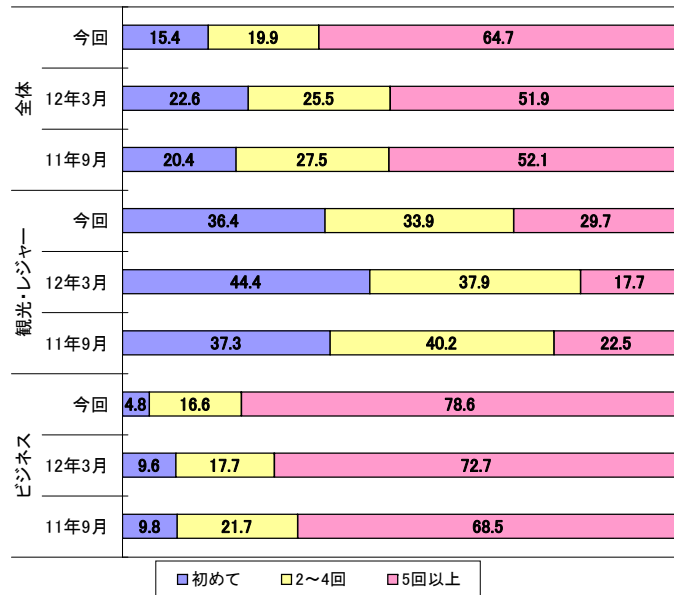
	有料宿泊					日帰り				
	10年3月	11年3月	11年9月	12年3月	今回	10年3月	11年3月	11年9月	12年3月	今回
全体	52.5%	56.3%	63.5%	61.8%	57.3%	26.6%	20.5%	20.6%	21.9%	25.2%
観光・レジャー	70.9%	81.0%	82.8%	87.8%	85.9%	25.2%	16.5%	14.1%	10.1%	9.9%
ビジネス	67.3%	66.3%	69.6%	63.3%	60.4%	29.8%	31.3%	26.4%	33.0%	34.3%

図表8 他県居住者の本県における消費額(利用目的別)

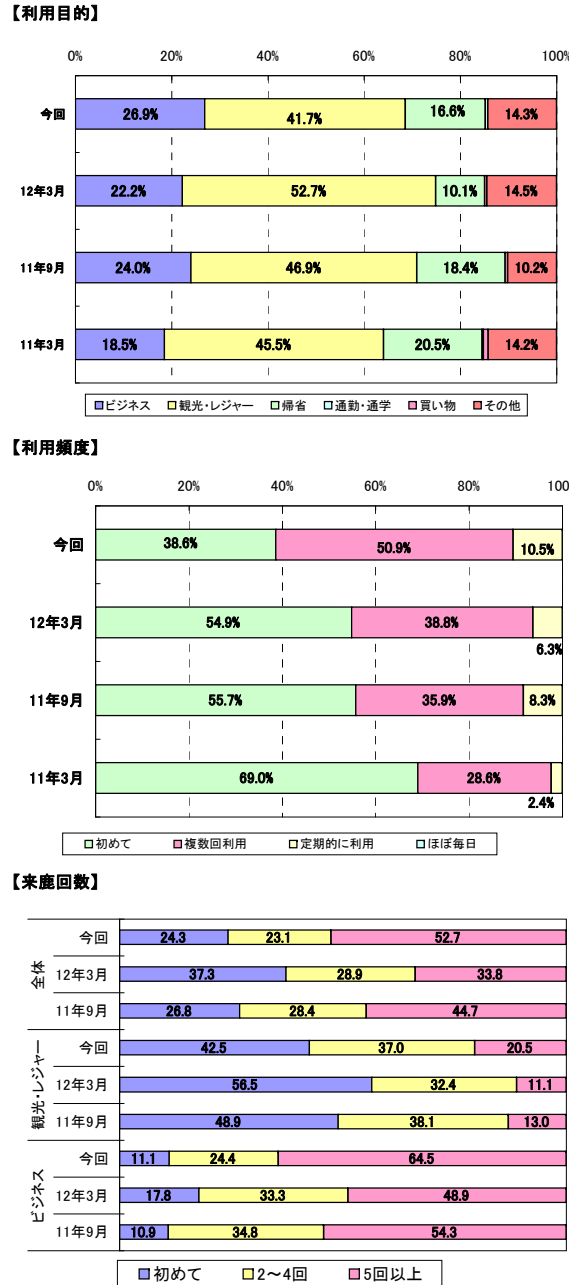
	(単位:円)				
	宿泊費	お土産・買い物費	飲食費	交通費	合計消費額
全体	10,407 (9,819)	7,545 (5,906)	6,835 (6,091)	4,861 (3,165)	29,648 (24,981)
観光・レジャー	16,824 (16,376)	7,549 (9,701)	7,992 (6,736)	5,681 (4,258)	38,047 (37,071)
ビジネス	5,301 (6,355)	2,377 (1,989)	7,033 (6,009)	5,014 (1,927)	19,724 (16,280)

注1) 下段の()内の金額は11年9月調査時の金額。
 注2) バック旅行の場合、バック料金に占める宿泊費を35%として試算。
 注3) 交通費は新幹線料金を除く。

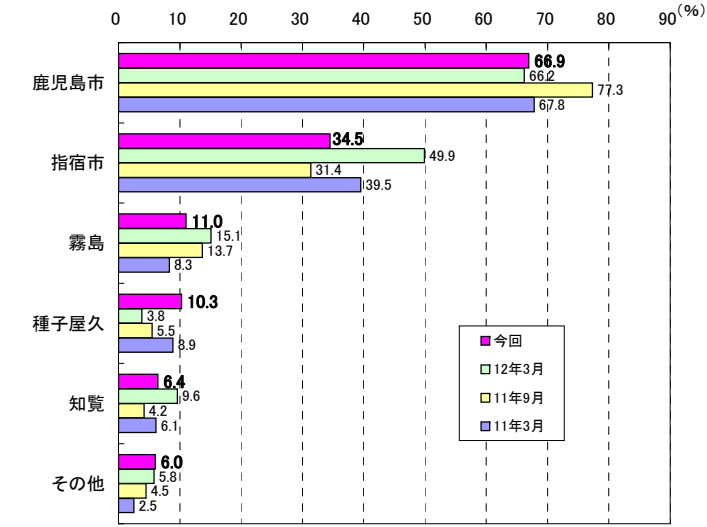
図表9 他県居住者の来県回数



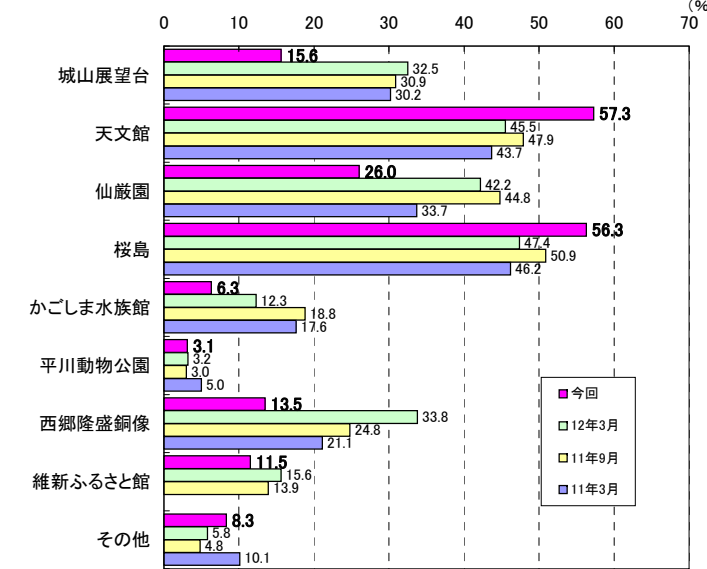
図表10 山陽新幹線沿線居住者の利用目的、利用頻度、来県回数



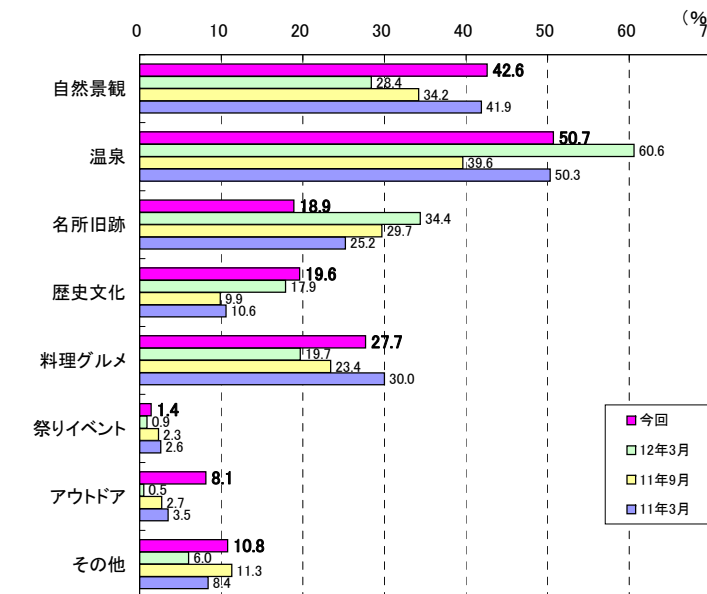
図表11 県外観光客の目的地(複数回答)



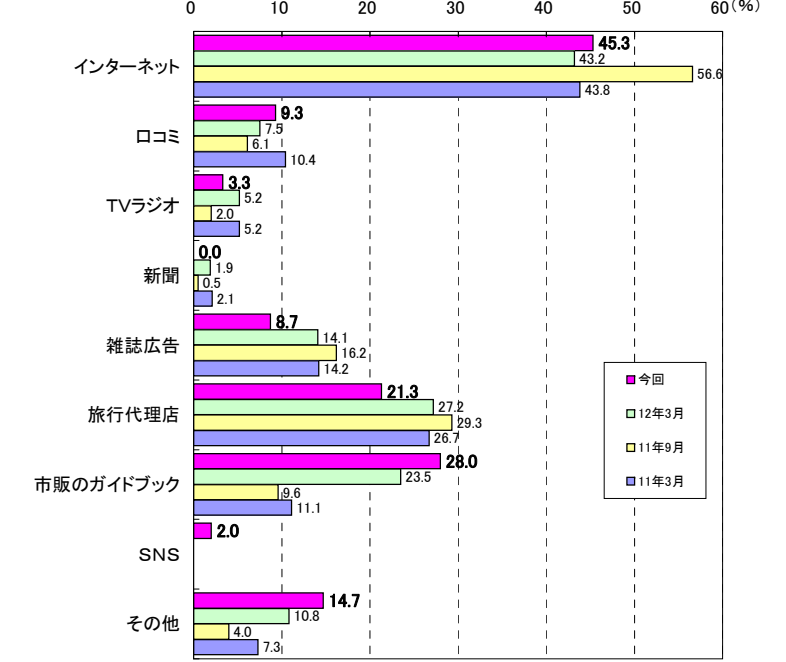
図表12 鹿児島市内を訪れた県外観光客の目的地(複数回答)



図表13 県外観光客の観光目的(複数回答)



図表14 県外観光客の情報収集手段(複数回答)



図表15 他県居住者の二次交通手段(利用目的別、複数回答)

